

高血圧治療ガイドライン 2014 と 大規模調査の意義

横浜市立大学大学院医学研究科
病態制御内科学（循環器・腎臓内科学教室）教授

梅村 敏氏

■プロフィール■

1975年 横浜市立大学医学部 卒業
1977年 横浜市立大学医学部第二内科 入局
1982年 米国テキサス大学（ダラス）内科・薬理学教室へ留学
1989年 米国クレイトン大学医学部高血圧研究所 助教授
1998年 横浜市立大学医学部第二内科 教授
2003年 横浜市立大学大学院医学研究科病態制御内科学 教授
2008年 横浜市立大学医学部 医学部長
2010年 横浜市立大学附属病院 病院長
2012年 横浜市立大学 学術院 医学群長
現在に至る



日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン 2009 は本邦のガイドラインとしては実地医家の先生方に最も広く読まれている。その改訂版 JSH 2014 が作成されつつあり、9月までには Public Comment を求めるステップに達しており、来年春には出版予定である。46人の執筆委員と79人の査読委員を含め、計147人の委員会で作成されつつある。本ガイドラインはエビデンスにコンセンサスを入れた evidence based consensus guideline として作成されている。

本年6月にはヨーロッパの「ESH/ESC 高血圧治療ガイドライン」が発表となった。また、本年末か来年には米国の高血圧治療ガイドライン「JNC 8」も10年ぶりに発表される予定である。今回は、これら新たな高血圧治療ガイドラインの最新情報を中心に今後の高血圧治療の方向性について考えていく。

例えば、糖尿病、CKD、高齢者等の高血圧での降圧目標は各ガイドラインでも異なり、JSH 2014 では高血圧管理の対象は140/90mmHg以上の高血圧患者であり、糖尿病、CKDの一部では130/80mmHg以上が治療の対象となる。

これらガイドラインの作成にはエビデンスの存在が必要不可欠である。神奈川県保険医協会では約10年前に全国の先生方を中心に「深呼吸の血圧への影響」というユニークな調査を行った。また、同じデータから1万人以上の高血圧患者の降圧目標到達率の解析を行い、Hypertension Research 誌に2本の論文を発表された。

これは、JSH 2009 の中でも引用され、日本の血圧コントロール状況が不良である実態が明

確に示された。

今回は高齢者が増加する中、起立性低血圧の実態調査も含め10年ぶりに上記と同様の降圧目標到達率の貴重な調査結果も出ると聞いており、その結果が注目される。

実地医家の先生方の「数の力」が発揮され、日本のエビデンス作りにますます貢献していただければ幸いである。